



謹賀新年

甲午四緑木星

有宵会だより

第61号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-6-4

新年のご挨拶

福田有宵



新たな年を迎えまして
本会の会員、同人、教室
関係者の方々に、謹んで
ご祝詞を申し上げます。
一年の計は元旦にありま
すが、その願いが叶うこ
とを期待いたします。
さて今年には「甲午」歳で、
干支を五行に当てると木
生火です。火勢熾烈であ
り、世の中は活気が濃く
浸潤していくので景況感
が高まるでしょう。
午年には馬で表わし、天
を駆ける神聖な動物なり
といい 神馬(しんめ)
神駒(かみこま)と尊
称しています。
社寺にお参りし祈願文
を書くのは絵馬札ですが

古くは本物の百馬を奉納
した由来から、室町時代
に絵馬で奉納されました。
中国では馬が空飛ぶ姿
を竜に想像して「玉竜」
そして翼をつけた「天馬」
となり神獣の存在です。

古代の日本には馬はい
なかつたという。記録で
は正倉院に四騎獅子狩文
錦が保存されています。
日本書紀の応神天皇1
5年に、百濟から良馬二
頭を献上したとの記事あ
り。漢語の伯楽(ハクラ
ク)は周の時代に馬を相
する名人の名、また天馬
をつかさどる星の名とも
いう。
天武天皇の五年八月の
辛亥(十六日)の詔に、
その年の新嘗祭に先立つ
て大祓いを行なうに、諸
国の国司から馬一匹と布
一反を被ものを差し出さ
せ神に捧げたものです。
馬が罪穢の解除や神祭り
に重要な役割を果たす神
聖な動物とされていたこ
と。肥前国風土記に占に

問い、荒ぶる神を鎮める
ため土製の土馬を祭り
らいたという。次第に形
代として土馬が献げられ
るようになる経過です。
わが国の最古の絵馬は
八世紀後半の奈良時代の
地層、平城京跡から木版
製の馬形が出土している
ことを紹介しています。

ここまで書き寄せ集め
の故事来歴ですが一興な
り、とご容赦ください。
さてさて大漢和辞典に
馬偏に属する文字は五百
二十字ばかり、必要な
は五十字ぐらゐのこと。
面白いのは毛色による
馬の種類わけは、白い馬
は白馬、黒い馬は驪馬赤
黒は騏、赤黄は騊。

龍馬は仁徳の備わった
馬で黄河の水の精であり
高さ八尺五寸、長脛で翼
のあるもの。易学の河図
洛書は黄河から一匹の龍
馬が出現したのを基にし
神馬・天馬はいずれも聖
徳人に感じて世に現出。
気の毒なのは驚馬で、驚
は馬の卑下なるもので凡
才の語になります。
人の一生の吉凶禍福は
あざなえる縄の如しとは
「人間万事塞翁が馬」で
すね。鯨飲馬食、馬耳東
風、河童の駒引き、馬頭

観音、意馬心猿、荒馬に
添うてみよ、老いたる馬
の道しるべなど語源や諺
に多くの蘊蓄が光ってい
るのがわかります。
新年にあたって

牧野有峰



新年あけましておめで
とつごさいます。
皆さま方におかれまし
ては穏やかな新春を迎え
られたことと心よりお慶
び申し上げます。

昨年日本経済も安定
したかにみえましたが、
二〇〇八年に波及したり
マンシヨックの影響が今
だに尾を引き人々の暮ら
しを不安定にしております。
特に消費税や物価高な
どの重圧感も人々の生活
をおびやかしております。
果たしてこの厳しい状
況の中で私たちの生活は
どのようになるのか、生
活の向上を願ってやみま
せん。
今年甲午四緑木星中
宮の年です。
四緑は経済、貿易、外

交など世界交流も活発と
なり順調に発展する象意
があります。しかしこの
年は政策的な変化がおこ
り見込み違いによる損害
を被りそうです。

唯一十干の始めに配置
されている「甲」は強行
な意志と勇ましい姿と動
きの意味がありますので
救世主が出現するかも知
れません。

さて、私事で大変恐縮
ですが、福田有宵先生の
温かいご厚意により六年
前に有峰会を設立させて
いただきました。
有峰会員は少数ですが、
勉強研究の内容はさまざま
まな占いを主として、年
三回に分けて研究会を実
施しております。これま
で実施してきた活動をで
きるだけ広く発展させて
ゆきたいと考えておりま
す。
幸い取手カルチャー
スクールの所長さんからご
支援をいただき、年に数
回一級の方を対象に対面
鑑定を行なっており、会
員の実技能力の向上に大
変役立たせていただいで
おります。
最後に見通しは決して
明るい年ではありません
が、皆さん方の力を結集

して十干の「甲」にあやかり明るく勢いに満ちた飛躍発展の年にしていこうではありませんか。

本年が有宵会の皆様にとって良い年になりますよ。ご祈念申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

吉田 侑加



新年あけましておめでとございます。

厳しい寒さが続いておりませんが、皆様にはご健勝で過ごしの事とお喜び申し上げます。

今年午年です。午は縁起のよい動物とされています。物事が、『うま』く行くとか幸運が『駆け込んでくる』等のあてかたがされています。又立ち上がり早く立身出世の象徴と伝えられております。午年に因んで躍動感溢れる年になるよう仰望してまいります。干支や九星を基本として天災を予測すると、『四緑木星中宮』の年は風を生じて風によ

り発生する損害を被る年でもあり、風が変じて雲を呼び雨となる事から、風水害による洪水、竜巻等被害の起こりやすい年と言われております。

私事になりますが、十五年程前に福田先生よりお教室を持つて後進の指導に当たりなさいとのお話がありました。当時外占で縁をいただいたお客様、またご紹介いただいた方々が、最初の生徒さんでした。始めはどの様に教えたら理解してくださるのか永く続けてくださるか等、種々頭を悩ませました。四苦八苦しながらでしたが、教室もお陰様で十五年を迎える事が出来ました。

長い間お勤めをしながら休まずに教室に通って熱心にお勉強する生徒さんの姿を見ていると大変灌漑深いものがございます。

今まで頑張ってきたよかったです。福田先生のご配慮もあり鑑定会にもお声をかけていただいたお蔭で現在は外占する生徒さんも育ってきています。私も生徒さんのお顔を見ると何時迄も元気で、教

室を続けて行かなければと気持ち奮い立たせています。

今後皆さんとご一緒に精進してまいります。新年にあたり有宵会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



九星と易断による

二十六年二月運

気学では寅二月

二月四日(立春)節入り

7	3	5
6	8	1
2	4	9

ア 生 気

二十六年三月運

気学では卯三月

三月六日(啓蟄)節入り

6	2	4
5	7	9
1	3	8

生 気

一 白水星の人の運勢

二月筮一乾为天の九五

三月筮一天雷无妄の初九

二月は順調運です。好事魔多しで甘言に乗らず。仕事一真面目な勤めで評判高く、目上の引立強し

家庭一家事や仕来たりの改善と来客の訪問を歓迎。愛情は優しい会話が一番風邪やのど血圧と歯手当

三月は方針定まらず閉口、気を緩めず本職守る。家庭の意地張り外部の批判を避ける。中旬は予定

実行、時々忘れ物で慌てる。威勢よい出費が多い。皮膚や関節、気病と怪我。

二 黒土星の人の運勢

二月筮一雷天大壮の九三

三月筮一水風井の上六

二月は慎重運、難問には上手に逃げるが勝。下旬は踏み外すのでご用心。仕事は固く弁は柔軟に、

家庭の用事は延びやすい。実際は相手咎めず笑顔で。金運は欲がらみ損のもと。

気管食道、頭痛怪我注意。三月は努力の結果で吉

日々精進し学び励むこと。どの仕事も一人です。我が家は筋目と習慣貫く。金銭は必要善でムダ省く。交友は自尊強く気難しい。

視力低下、治歯肩頸凝り。

三 碧木星の人の運勢

二月筮一雷水解の九二

三月筮一艮為山の六五

二月運は先に進まず懸案問題の解決。文書丁重に扱い金銭収支は堅実に。仕事は新方面へ進出図る。

家庭で酒食楽しく対話吉。運氣は今後の予兆を示すので参考に祝儀事あり。気疲れ休養、視力に頭痛

三月は春陽氣に一服気楽に過ごす。静かに我が家は親子の絆を固める。仕事はマンネリ調、雑費

多く細かく支出。約束は遅れ気味で悔残りやすい。眼や焦慮心、足腰用心を。

四 緑木星の人の運勢

二月筮一風水渙の六四

三月筮一山天大畜の上九

二月は渙卦が示す冬の水を春風が吹き散らす。運氣は耐えて待てば好転。仕事は意見合わず下旬仲直り。夫婦愛は信頼から。

意外なところで交際費と買物。諸事マンネリ改善。冷え風邪、足腰神経疲労。

三月は再起一転、粘り強さで八合目を目指す。運氣は頑張る人に好運を。

仕事は中旬に難問あり対人面に最も気配りを。娯

楽と趣味費用にも節約を。胃炎、過食、股腰に用心。

五 黄土星の人の運勢

二月筮一雷沢帰妹の六五

三月筮一沢風大過の初六

二月は平穩に徹して安全策でいく。些細な事柄にせんさくせず寛容に。

住居の古傷や老朽化など再発防止、旧交大切に。仕事は欲張らず平均点で満足。高額購入さける

三月は目標決めて進む。言い過ぎやり過ぎはムダ、仕事は謙虚に臨む陰の力出して誉められる。

愛情面は素直に言葉だし。金銭は衝動買いを警戒。冷えと血圧、腎虚や神経。

六 白金星の人の運勢

二月筮一雷地予の九四

三月筮一地風升の九二

二月は何ごととも自分の意思で進める。月間予定で目標を叶える努力で吉

本業に弱味あり艇入れを。業務資金や家事支出は緻密にチェック。対人面は

自然体、外より内を解決。疲労、睡眠、肝腎を補つ。

三月は好調ペース、周囲と協調し笑顔で明るく。人の出入り多く気遣いを仕事は小さい種を大きく

育てる着想。交際費活きた使い方で見学や旅行吉風邪軽く胃腸優しく無事

七赤金星の人の運勢

二月筮一山沢損の六三
三月筮一水天需の九一

二月は立春大吉の気分
でいけば心が和む。人脈の広がり電音多く忙しく頼りにされ一肌脱ぐかも家庭は子孫の心配か、修繕や治療費の支出に心配り。良縁や仲人話があり。風邪、感染症、胃腸不調
三月は平穏さを心がけて安心。聞く耳あれば為になる話聞く。急がずに待つ気持ちで上旬に紛議。仕事振りは地味にこなす金運は予期せぬ財あり。風邪気味と頭痛、過敏症

八白土星の人の運勢

二月筮一沢天夬の九一
三月筮一天山遯の上九

二月は心身に忙しく、
独断で進むと裏目の結果出すぎては誤解を招く。ビジネスは順当な方法。家庭の団欒は心安らぐ、親子は気持のズレに配慮。部品交換や工事費支出。過労、気管支、筋力関節
三月は活気が出るので公私共に大いに活躍あり。仕事は仕上りに重点を置

く。依頼事は下旬に成就我が家の主人公の役割。荷の重い出費は急がず。のどと咳、足筋や再発型

九紫火星の人の運勢

二月筮一雷地予の初六
三月筮一巽為風の上九

二月は諸事に慎重に過
ごして安全、身の回りと足下に用心。予定や見通しは延びやすい。仕事は油断せず金銭がらみは用心。交際面で温かい人情をいただく。寒さに負けず気管、動悸や血圧など
三月は周囲の状況が煩わしい深入りさせる。安請け合いは禁物。仕事はルールに従い無難、操作や運転などは要注意を。家庭内ウツカリ失言があつても爽やかさ心がける。口腔と歯、熱、外傷用心

福田 有宵



十一月有宵会報告

今中 陽子



昨年十一月三十日(土)に平成二十五年最後の有宵会が開催されました。場所は前回に引き続き松戸でしたが、今回は松戸商工会館別館の方でした。毎回場所を確保してくださる幹事さんに感謝感謝です。
第一部は日本占術協会群馬支部長をされていた仁科玄州先生のご講演、第二部は福田先生のお話でした。

仁科先生は平成二十二年六月一日の午前六時頃、突然脳梗塞で倒れられて、右半身が麻痺するというアクシデントに見舞われましたが、リハビリで克服され、久々にお元気なお姿を見せてくださいました。
仁科先生からは、ご病気についてと、占者として心に残った占い、そして占いの進むべき道につ

いてご講演いただきました。以下、その内容について記載いたします。

第一部「仁科玄州先生のご講演」

一「脳梗塞という病気について」
この病気の怖いところは、これといった前触れもなく、ある日突然、それもほんの一瞬に起きてしまうことと、そしてその後、元の自分を取り戻すことが本当に大変であることです。
私の場合、半年ほどの入院でしたが、病院と云うところは病気の人の集まるところです。
まず、気持ちの上で病人にならない、病気に甘えないと言ふことを心がけました。



実は病気であるということを受け入れることは大切なことである反面、楽でもありません。

しかし、そこに甘えて居ついてしまえば、復帰は出来ないのです。
必ず元の生活に戻るという心構えは、何よりも大切なことです。
次に病気の前兆についてですが、良く聞くように頭が痛いとか、手がおかしいというようなことはありませんでした。
強いていえば、その年の五月中旬の占いの集まりの帰りのことです。
はじめは駐車場で自分の車を見つけれませんでした。なんとかが見つけて帰路につくと今度は道を間違えてしまいました。
決して初めての道ではなかつたにもかかわらずです。
脳梗塞をおこす二日前にも、こういった現象はありました。

カーナビが使えなくなり、道に迷ってしまいました。迷った時は頭の中から声が聞こえてくるように、それに従った結果でした。
ここで福田先生の解説です。
まず、家に帰れないということには、二つの理由が考えられます。

一つは疲れから来るもの。もう一つは何かが憑依するということです。
病の兆候というものは必ずあります。
体調の変化に気づくかどうかの問題なのです。例えば、手が重く感じられる、組んでいた手がくずれ、身体にどこか違和感がある、噛み合わせが悪い、味が違って感じる等々、色々あります。
遡って分析してみると発症の半年前の良宮。

中宮と良宮に回座した時は、体調の変化が出やすい時です。変化を上手に見極めるには物事を五感で捉えることです。特に大切なのは消化器系です。というのも、中宮・良宮は消化器系を表しているからです。中でも、味覚は変化を捉えやすいところ。食の好みが変わってくる、お酒の銘柄を変える等々あります。
また、関節にも変化が出ます。



肩から背骨にかけて痛みが走るときは要注意です。二・「仁科先生の心に残る占い」



平成二十五年十月にとつた易です。

依頼人は昭和三十五年生まれで本命四緑、建設会社勤務の五十三歳の男性です。

依頼内容は、不動産会社への転職についてでした。筮前の審事として、その不動産会社には知人がいるとのことでした。

また、依頼人は自分は運が悪い人間に思えるので、転職することで、それも変えられるのではないかと考えてもいるようでした。

五十三歳にもなる男性がなぜ自分で決めることができないのか、なぜ東京の亀有から群馬の自分の所まで占いの依頼をしてきたのか等々、ひっかかることはありましたが、

依頼は依頼です。得卦は澤山咸の初六・伏卦は澤火革。

直感的に、転職すべきだと思いました。

しかし、直感に頼って出した占断であつたため、熟考すれば、その中に他に何か含まれていたらあつたのではないかととも思われ、ひっかかりを残した占いでした。

福田先生の解説は以下の通りです。

直感的なものの、響いてくるものが「咸」です。ですから、この場合、非常にストレートに答えが出たのでしよう。

「咸」ですから、次の会社の社長と感じあつたので、当面はうまくいくでしょう。

しかし、平成二十六年の四緑は中宮に回座するので、厳しいものもありま

す。特に五十代という事であれば、待遇・将来等甘く見ることもなく、厳しいものがあることも覚悟する必要があります。うまくいかないのは何故なのか。運のせいにしてはいないだろうか、実力・能力はどうなのだろうか？取りこし苦労を捨てて動

くことによつて、運は開けてくるでしょう。

「今後の占いについて」

歴史的に見て、人間の思考回路が、唯心論的な思考から、唯物論・科学的思考というものになつてきたことにより、占いというものの立位置も変わつてきたと思ひます。

科学というものには、どんな時にも $A+B=C$ というような公式がありますが、占いにはそういう公式はありません。

弁証法的唯物論と、運命論・経験論というものは合いません。

ですが、もし $D=$ 運命、 $A=$ 条件、 $B=$ 状況、 $C=$ 性格とした時、 $D=A \times B \times C$ 、というような公式を作ることが出来れば、現代的思考に沿つた占いというものが出来る

のではないかと考えます。古くても新しくても、人の姿はそう変わらないと思ひます。

占いを運命学として学問的に構築して、後世に残して欲しいと思ひます。長時間にわたるご講演に

を立つたままでお話しください、懇親会にもご出席くださつた仁科先生、本当にありがとうございました。

先生の順調なご回復にびつくりするとともに、心からお慶び申し上げます。そして、仁科先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

第二部「福田先生のお話」

一・来年の運勢等について

十干は天、十二支は地、九星は人の姿、性格や個性を表します。

江戸時代、九星は世に出ていないので、十二支による相性占いが流行りました。

平成二十五年は五黄中宮の年でした。そして今年話題となつたものに「食材の偽装」がありました。

これはまさに五黄の象意を表しています。五黄の年は先を行くのではなく、後始末をする年でもあります。病気でいえば後遺症の問題があるでしょう。また、五黄中宮の年は変革の年でもあります。すぐに新しいものは来ま

せん。古いものをどうするかを考えなくてはならない時です。ですから、今年・平成二十五年は新旧交代の年ではないので

す。来年の四緑中宮の年に伸びていくために、今年には「臭いものに蓋をする」のではなく、膿を全て出すようにしなくてはなりません。

一番上手に生きていくのは、運に逆らわないことです。

人生は、待たなくてはならない時もあります。伸びる時に伸び、待つ時には待つ、という姿勢が大切

です。それと運氣は大体三年ごとに変わるということも覚えておきましょう。

次に各星の運勢を少しお話ししましょう。本命が二黒・五黄・八白の人は、今年

は少なからず変化を与えられました。来年はその変化を捉えて変えていくと良いでしょう。そうすれば、それ以降の負荷が変わっていき

良いものがあるのです。

三碧・四緑の人は今年手を付けたことを、来年以降も続けていくことで

す。勢いを与えられた時には、勢いに乗らなくては

はいけません。四緑の人は巽宮の勢いを持つて中宮に入るので

から、順風の時はそのまま何も変えない方が

良いでしょう。変えてしまえば、今度は逆風になつてしま

います。六白・七赤の人はそれぞれ乾宮と兌宮に回座し

ます。年盤の右側に回座するときは、運勢は横ばいですが、余裕がなければダメです。余裕がなく突つ走ると危険です。九紫は、今年

は離宮、年盤の頂上でしたので、

良いことがあつたと思ひ

ます。しかし、それまでの積み重ねがあれば、の話です。

何もしなければ、良い宮に回座しても何の結果もついては来ません。

二・「命名について」

昔、名は体を表すといつて、漢字や言葉の意味を捉えて命名しました。例えば戦前ですと、勝利

や勇、等々。
しかし今は、音の響きを重視した命名が流行っています。

悠真くん、結衣ちゃん、など響きの良い「ゆ」音が多い傾向です。
また、怜子ちゃん、など「ら」行は切れ味の良い響きがあります。

蓮くんのように、「ん」で終わる名前は「ん」がしまる音なので、それが良いか悪いかは研究の余地があります。

男性は二十一画・二十九画が吉数といわれています。
二十九画は吉凶半々ですが、頭脳を生かす画数でもあります。

運命学は時代の流れとともに進む学問です。
こういった流れをくみ、それを研究していくことが大切です。

最後になりましたが、福田先生が冒頭におっしゃったお言葉を記します。

「南の日当たりの良い場所に植えられた木は、まっすぐ育ちますが、北の日当たりの悪い場所に植えられた木は曲がって育ちます。」

まっすぐな木は建築に使われますが、曲がった木は薪にしかなりません。

人間にとつて、その日当たりは「言葉」であるとも言えます。

言葉の掛け方で、そこが日当たりの良い南側になったり、日の当たらない北側になったりもします。

来年は是非、自分の環境を日当たりの良い南側に出来るよう心がけたいと思います。

仁科先生、福田先生、貴重なお話を本当にありがとうございました。

今中 陽子

『おもちゃうて』
おかしゅうて』

田中寛子

平成二十六年の幕開けの朝日新聞の投書欄に私の拙い投稿を載せて頂きました。



新春のテーマとして『ことしこそ』と言うタイトルで募集をしていたからです。

本来『ことしこそ』の意気込みには、希望や未来への透明な喜びを含んだ大らかな一年へのスタート地点だと思つたのですが、現状の私には泥沼に足を落としたままで跪いている暗い重圧感を抱いた己しか見えていませんでした。

人間の営みの最期は必ず「死」を持って緞帳を降ろす現実を把握しているものの、その様相は百人百様で決して明るいものではありません。

私の周囲を見渡してみても友人、知人、仲間等の大半はどちらかが残つての独居暮らしになっていて私の介護スタートは、ほとんど最後のメンバーです。

リレーで言えばバトンを握つて体験者の尻尾に追いつこうとばかり、ヒリヒリしながら駆けている図式です。
我ながら滑稽ですが、笑えない現実です。どこかで今の現状を大げさにアピールしなければ、身が持たなくなるナーと

決心して役所関係者からの後押しも有つて介護二か月目からあらゆる場面でサンドイッチマンに変身(?)をしたのです。

かつての鶴田浩二をイメージして気持ちの中でプラカードを高々に掲げて『ウンコのままじ続行中!』『ハイツ!朝から晩迄キリも無し...一日、八回く七回ツ!』『下痢、々々。その上嘔吐も一緒かつ!』『テツシユで始末してるのよ!』『ボロ布、底ついちゃつてエー』『テツシユ一日で十箱はパーよオ』『助けてエ!ボロ布、頂戴!』

宣伝効果は一瞬にしてまたたく間に集まりサイザの段ボール十個分に...赤チャンのオムツや老人の腰巻に至るまでバス、古ゆかた、じゅばんにエプロン等々...

この一年ですべて使い切り...フウツ!宅配で発送してくださった方...自転車に積んで現れた方々...何度も持ち運んで通つて来て下さる友...
二十年ほど前にテレビでロシア系混血の女性の方が戦時中の幼少期にコ

ンケツ コンケツとイジメを受けてサーカスに売られ...『辛うて...』『悲しゅうて...』『寂しゅうて...』『苦しゅうて...』『せつのもうて...』『にくらしゅうて...』『だけんど...今は...』『おかしゅうて...』『おもしろうて...』『楽しゅうて...』『何もかもハッピーやねん...』『幸せは自分で工夫せなや人からもらうもんじゃ無かとなエ』と豪快な笑顔をアツプで映し出された瞬間!

あゝあゝ『苦惱こそが己の財産になるんだア』と胸がときめきました。

まだまだ彼女の豪快な女性像には及ばない迄も、これ迄の半世紀の余をもだえ続けてきた己の立て直しは『ことしこそ』と誓い切りギリリジョンで投函したのが次の文章。

書きなぐりで恥じ入りつつ...一読していただければ深甚です。感謝!
朝日新聞元旦号
の記事
童女に戻って介護も軽やかに
主婦 田中寛子
昨年の正月明けに病気で突然倒れた夫の介護を

始めてから一年。今年から二年目の老々介護がスタートする。

一年目の昨年は、私自身も介護疲れなどから救急車で病院に運ばれて、一時入院した。その後も体力を落とすまま、介護保険の力も借りて夫の介護を継続してきたが、挫折寸前だった。

人生、後戻りは出来ず、老老介護の身には『ことしこそ』という意気込みは湧くはずもない。しかし、それではいけない。そうだ!今年には『童女』に戻ろう。わけもわからず、なぜか希望や喜びで全身がはじけるようだった、あのころ無垢な自分を、気持ちの中でよみがえらせてみるのだ。

拭いても捨てても連日連夜の汚物処理もなんのその。今年には八十一歳の夫の介護を余興に変える工夫をしてみたい。

やるっきゃない。



再開

阿部 治



時に再開とはいってもよいものであります。人生にはたくさんのご縁（出会い）で成り立っているものだと、あらためて感謝致しました。思えば、三年程前から体調を崩し、人とのお付き合いからも段々遠ざかるようになりました。塞ぎ込む日々が続き自暴自棄の毎日。まるで暗く長いトンネルの中にいるような時期が暫く続いておりました。そんな中、来る日も来る日も福田有宵先生を始め、佐藤宗眩先生、半田晴詠先生、伊藤璃香先生、久保田恵都予先生といった沢山の先生方の励ましやご慈愛のお陰でようやく再開、立ち直る事ができました。平成二十五年二月には福田先生のお誘いで東京の日枝神社様に新年のご挨拶に詣でる事が出来るまでに回復する事が出来ました。その日は、

空を掃いたような雲、高い青空にお天道様が微笑む素晴らしい日でした。三年ぶりに公の場で皆様にお会いできました事、皆様の驚きと優しい眼差し、愛護に満ちた言葉が今もなお記憶の奥にしっかりと刻まれて感謝に堪えない思いで一杯でございました。時に、病がたくさんの事を気付かせてくれました。そういう意味では、神様からのプレゼントだったのかもしれない。易学の大家であり、おみくじ研究の第一人者でもある福田先生のご指導のもと、気学でいうお水取りと吉方取りを続けて来たお陰もあると思えます。平成二十二年五月最も辛かった時期に訪れた比叡山・横川の元三大師堂様を始め、埼玉・川越市の喜多院様、東京・調布市の深大寺様など、おみくじの創始者でもある元三大師様を御祀りしているお寺には「縁があつて今でもよく御参りをさせて頂いております。平成二十四年壬辰の年になると、四緑の自分と家内は震宮に入る年になりました。福田先生いわく、震宮は何事にも勢いが出

てチャンスに恵まれる年との事。「運は動より生ずる。」大変好きな言葉であり、沢山動き回ると運がよくなるそうです。私達夫婦は先生のお言葉を信じてせつせと祐気取りに励みました。その年は、西南の三碧方位が吉方だったので、ご縁あつて伊勢の神宮へ二回も詣でる運びとなりました。一年に二回も詣でるご縁を頂いた事でその後奇跡と思える出来事が次々と引き起こされようとは誰が予想したでありましょうか。翌年に式年遷宮を控えた伊勢は活気があり正に日本一のパワースポットであり、エネルギーに満ちた聖地であることは言うまでもありません。何度となく足を運んでいるこの聖地。行くたびに心が清らかになり、有り難く感謝の念が自然に湧いてくる不思議な所でもあります。十年程前に家内が初めて福田先生とご縁を結ばせて頂くきっかけとなつたのも伊勢の神宮へ詣でた直後でした。伊勢の御参りから四ヶ月目の平成二十五年癸巳年の二月初旬、もうすっかり諦めていた住宅建設の

お話が突然舞い込んで来ました。全く予想していなかつた展開に戸惑いもありましたが、その年は四緑が巽宮に入り、祐気取りをした三碧方位にある土地のご縁であつた事と福田先生が全面的にご指導を下さつた事で、あれよあれよという間に家相まで考慮した住宅の着工へと進んでいきしました。まるで川の流れに身を任せるかの如く沢山のご縁に恵まれました。この不思議な出来事に只々感謝するしかない日々でございました。これがいつも福田先生がおっしゃる「運氣に乗る」と言う事なのだと、実践して初めて実感したのであります。福田先生には、土地選びの段階から住宅メーカー、銀行の選択、地鎮祭のやり方、設計図面のご指導・監修、外構工事と、細部に至るまで昼夜を問わずご指導・ご助言を頂き、お忙しい最中にもかかわらず完成直後のもかかわらず完成直後の我が家に足を運んで下さり、お清めの御祈祷までして頂いた事は万感の思いであり、感謝の言葉しか見つからない程有り難く思っております。本当

に私達は運が良いみたいだと、改めて思いました。平成二十五年十一月には、有宵会旅行にも参加させて頂きました。今回の旅路は、みちのく宮城の歴史ある神社古寺にお礼参りのつもりで参加させて頂きました。そして素晴らしい風景や温泉、郷土料理に舌鼓。あつたかい有宵会のメンバーとの楽しいひと時を過ごさせて頂きました。三年ぶりに参加した有宵会旅行。色々な経験、体験をさせて頂きました事、本当に有り難く思っております。初めての出会いあり、おなじみの出会いもありました。福田先生の有り難いお話、伊藤先生、半田先生のお話、たいおもてなし、旅行で同室だった長澤光祐先生、清水允冬さん。本当に今回の旅行は楽しく笑顔が絶えない素晴らしい旅行で本当に楽しかったです。

また、この場をお借りして、私が愛読している本の一説をご紹介致します。「二五〇〇年前、お釈迦様の最初の悟りと言われすなわち縁起の法則というものがある。すべての現象は無数の原因や条件が相互に関係し合つて成り立っているものであり、独立して存在するものではない。全てのものはこの法則に従っている。「すべてを味方すべてが味方」小林正観・著）」という内容のもので、人間関係に置き換えると、人は自分の人生を自分の思いで作れると思つていくがゆえに、苦しむ。人生は自分の思いで出来上がっているのではなく、自分以外の周りの人々のお陰で成り立っている、とお釈迦様は悟つたのだそうです。自分の人生を作っているのは、自分ではない！？自分以外の神、仏、友人、知人、家族というものが私達の人生を成り立たせて下さつているとするならば、自分出来る事はただひたすら感謝をするしかない、という胸中に至りました。この様な考え方に会つて自分が一八〇度変わりました。私達の人生は出会う人、出会う人を見方につけてただ感謝する。そして全ての起こる現象を受け入れていく。それしか自分の人生に参加する方法がないという考え



方。他の存在の協力がなければ何事も成り立っていかないのだと。また、お釈迦様は、「人の生を受くるは難く限りある身の今命あるは有り難し」「良き友を得る事は聖なる道の全てである」とおっしゃっています。その通りだと思っています。最後に、今回初めての執筆のチャンスを頂きまして有り難うございます。公私にわたりご指導下さっている福田先生、佐藤先生、いつも母親のような優しさで包んで下さる伊藤先生や半田先生、久保田先生。時的確なアドバイスを下さる千葉一理先生や高田玲照先生、住宅建設の専門家である若林シマ先生、表札制作の際にご指導下さった菅原有恒先生。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

阿部 治

先日 ホテル佐勘さんの女将さんより感謝の八ガキが寄せられました。

NPO通信

NPO法人として左記のイベントに参加しました。(敬称略)

品川プリンスホテル新春占い会
二十五年十二月三十一日
横小路純華・武田悠季
二十六年一月一日
濱野延珠・半田晴詠・小野舞子
一月二日
佐藤宗暉・三枝白繪・久保田恵都子
岩槻大師様 出演
二十六年一月一日
佐藤宗暉・都平純子
一月二日
杉本幸子・池田昌榮子
一月三日
佐藤宗暉・伊東直子・前田龍徳

有宵会として、三日間の鑑定料六万円をお大師様に奉納しました。

今後の予定から
二月十五日(土) 松戸市民活動見本市ボランティア、無料鑑定会に出演
三月九日(土) 江東区役所「ら・館 占い館」ボランティア、無料鑑定会に出演

賛助会費として左記の方々からご寄附を戴きました。有難うございました。

ました。

(敬称略・順不同)

『佐藤宗暉(二回)・マダムペーラモンテ・福田ゆみ・牧野有峰・岩崎紀子・紫百希・今中陽子・野路さくら・八川林加・塩田千壽・半田晴詠・武田悠季』

事務局

寒桜
桜と言えば、春の象徴といえる豪華絢爛な染井吉野が有名ですが、『寒桜』は冬に咲く『冬桜』の仲間です。大島桜と寒緋桜の交配種で、観賞用に栽培されます。早いものでは一月から、楚々とした淡紅白色の花を咲かせます。

冬桜は晩秋から初冬に咲く淡くはかなげな桜です。群馬県藤岡市の桜山公園に植えられた約700本の冬桜は、国の天然記念物に指定されています。

また、桜の原種のひとつで、中国南部や台湾、沖縄、九州に多い『寒緋桜』は濃い桃色の花を咲かせます。

冷たい風の中に凛として咲く風情を愛で、これらの桜を区別せずに『冬桜』『寒桜』と詠むこと

もあります。



驚くべき隠された歴史の裏面
大川法祥

前号からの続きです。『至福のとき、そして謎の死』

井上内親王が白壁王と結婚して十七年。五十四歳になっていました。宝龜元年(770年)光仁天皇となった白壁王。井上内親王は遂に皇后となります。(異腹の息子、山部王は後の桓武天皇)井上皇后の至福の時は一年余りでした。突然『巫蠱』の罪で皇后の位を廃され息子他戸皇太子も廃太子され、皇族の身分まで剥奪されました。そして一年後(775年)四月二十七日二人は同じ日に没しました。謎の多い死。怨霊となっていく死後の人生…。宝龜六年(775年)大和の没官宅に幽閉された井上皇后、他戸親王(15才)

の親子が同じ日に死亡という不自然さについて正史は何も語っていませんが死後井上皇后が龍になったとあり宝龜七年九月には二十日間瓦石土魂が降り、また翌年には冬、雨が降らず井戸水が絶えようと治川の水まで絶えようとしたとあります。又光仁天皇の夢枕に冥界からの親子の死霊が度々現れるので災害が起きる度にお大被えをし、六百人もの僧をして宮中朝堂で大般若経を読ませたと正史にあります。

事務局だより
新年明けましておめでとうございます。

今回の例会
日時 三月二十九日(土)
午後一時十五分より
場所(綾瀬)「足立区勤労福祉会館ブルミエ」
(終了後懇親会を予定) 講演

「最近の葬送儀礼と墓相学について」
福田有宵先生

行事予定
「初詣」
日時 二月二十日(木)
午前十時三十分集合
場所芝の大神宮様

集合場所大江戸線大門駅6番出口

十一時からの正式参拝になります。

平成二十六年は午年です。馬は「神様の神聖な乗り物」。その疾駆するスピード感から「飛躍の象徴」とされ、決して人を踏まないと言われることから交通安全のお守りや絵馬に使われています。

飛躍の年を上手に乗りこなして、元氣な一年を過ごしましょう。

昨年十一月の有宵会には六十二名の方が参加されました。

本年もよろしく願い致します。

事務局長 伊藤璃香

編集後記
本年もよろしくお願ひ致します。お蔭さまで無事、有宵会だよりも一年目を迎える事が出来ました。ご来会された会員の皆様に感謝いたします。今後共宜しく願ひ致します。

